

# 輸入粗飼料の情勢

全 酪 連  
購買生産指導部  
購買推進課

## 北米コンテナ船情勢

北米西岸港湾労組（ILWU）と使用者団体である PMA との労使交渉は、これまでの旧協約が失効する 2022 年 7 月 1 日までに新協約の合意に達しなかったと両者から発表がありました。その上で今後も新協約合意に向け継続協議を行う中で、合意に達するまで港湾の通常業務を続けていくという声明を発表しています。今後、秋口から米国では年末商戦に向けコンテナ貨物輸入のピークシーズンを迎えるため、早期の合意が望まれています。

ロサンゼルス・ロングビーチ港では上海における長期化したロックダウンの影響や、例年ピークシーズンを終えた春先から初夏にかけて船腹が緩和することから、年末年始のピーク時には沖合で 100 隻以上滞船していましたが、この 1 カ月は 25 隻前後の滞船数を維持しています。これに伴い定期船のスケジュールも安定しており、日本への牧草の輸出量も回復しています。一方で、現地コンテナターミナルでは輸出向けのコンテナ搬入許可期間の変更が頻繁に発生されるため、輸出業者では変更後のスケジュール対応に四苦八苦しており、引き続き不安定な出荷が続いています。

## ビートパルプ

【米国】

旧穀である 20-21 年産ビートは例年よりも生産量が多く、冬季の天候も手伝い保管状況がよかったことから、産地の工場によっては例年よりも 2-3 週間長い 6 月の第 2 週まで生産が続きました。

21-22 年産の作況は、春先以降、産地で良好な天候が続いたため順調な生育が続いています。一方で主産地の一部を除き例年より播種作業が遅延したため、単収の減少が懸念されています。

## アルファルファ

ワシントン州

主産地であるコロンビアベースンでは 22 年産 1 番刈の収穫が終了しています。22 年産の 1 番刈は生育期である春先の寒冷な気温と、収穫直前となる 5 月上旬に強風を伴う断続的な降雨に直面したことから、収穫作業の開始は例年よりも 3 週間程度遅れて開

始されました。加えて収穫期においても降雨が続いたため、雨当たり品が多く発生しています。また雨を避けられた圃場も適期を逃し刈遅れとなり、22年産の1番刈は下級品中心の発生となり上級品及び中級品の発生は限定的となっています。

現在、コロンビアベースンでは南部で2番刈の収穫が開始されています。6月上旬から天候が回復しており、2番刈は上級品の発生が期待されています。一方で1番刈において適期を逃し、刈遅れとなった圃場の中には、固化（リグニン化）した茎が刈り取りできず圃場に残されており、これらの茎は2番刈と同時に収穫されます。このため2番刈の圃場によっては刈り残された色目が悪く、茎質が固い茎の混入の可能性があり注意が必要です。

22年産1番刈の収穫開始の遅れは、輸出向けアルファルファの生産量に影響を及ぼす可能性があります。産地では例年4番刈まで収穫されますが、22年産は1番刈の収穫が3週間程度遅れたことにより、生産スケジュールが大幅に遅れているため、多くの圃場で3番刈までしか収穫できないことが見込まれています。このため輸出向け主産地であるコロンビアベースン一帯の22年産アルファルファの生産量は例年より減少することが予想されています。

産地相場は1番刈で下級品中心の発生にも関わらず、米国の酪農家、肥育農家といった内需からの旺盛な引き合いに下支えされ、他の地域同様、昨年同期比で大幅に上昇しています。背景には昨年来続く旱魃により各生産者において粗飼料の在庫率が低いこと、直近の好調な米国乳価により購買力が高まっていることが挙げられ、産地では売り手市場が続いています。1番刈で上級品の発生が不足しており、22年産としての総生産量の減少も危惧されるなか、2番刈以降も上級品中心に堅調な相場になることが予想されています。



左：雨当たりとなったワシントン産1番刈アルファルファ

右：刈遅れとなり固化した1番刈の茎が残る2番刈収穫前のアルファルファ圃場  
オレゴン州

産地では昨年の冬期から今春にかけて冷涼な気候が続き、直近6月上旬に降雨があったため、生育は順調で7月上旬から1番刈の収穫が本格化しています。



オレゴン州としての早魃状況は昨年の同時期に比べ若干改善しているものの、主産地である同州南部のクラマスフォールズや中部のクリスマスバレー周辺では引き続き早魃傾向にあるため、今後も注視が必要です。

### カリフォルニア州

カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、現在4番刈が収穫されています。産地では夏季に入り連日40℃を超える日が続いており、成分値は下がり始め、茎は細く、過乾燥気味なサマーハイが多く発生しています。例年サマーハイは成分が低いいため、春先に発生した上級品に比べ相場は下がる傾向にありますが、22年産は引き続き内需を中心に旺盛な引き合いが続いており、産地相場は堅調を維持しています。

### ユタ州

産地では他州同様、春先の冷涼な気候の影響で、例年より10日から14日程度遅い6月上旬から1番刈の収穫が開始されました。収穫期の天候に恵まれたことから、上級品が発生していますが、22年産は生育期の気候の影響から、生育が遅れ、単収は減少しており、生産者によっては、例年に比べ1番刈の生産量が40%—50%程度少なくなっています。

6月中旬の気温も例年に比べ低く推移しているため、今後収穫される2番刈においても成分値の高い上級品の発生が期待されています。



収穫直後のユタ産1番刈アルファルファ（6月上旬撮影）

### 米国産チモシー

主産地であるワシントン州コロンビアベースンでは、6月中旬から1番刈の収穫が開始されており、最盛期を迎えています。コロンビアベースン南部では収穫期に降雨があったため、雨当たり品が一部発生しています。同地中部から北部では1番刈の収穫作業は終盤を迎えています。収穫期において好天が続いており、大半が雨当たりであったアルファルファと状況は異なり、多くの上級品の発生が期待されています。

昨年早魃に見舞われたアイダホ州では、6月にあった降雨の影響で早魃状況は改善さ

れており、冷涼な気候のなか順調な生育が続いています。同州では7月上旬から1番刈の収穫が開始される見込みです。

産地相場はまだ具体的には見えていませんが、ワシントン州では1番刈アルファルファで輸出向けの発生量が少なかったことから、工場の操業に十分な牧草を確保できていない輸出業者が、馬糧向けを中心に上級品チモシーを旺盛に買付けする動きがでています。生産農家においても他作物が高値で取引されているなか、チモシーに対する期待値も高いものの、アルファルファやクレイングラスなど他作物と異なり、内需向けの実需を伴わない投機的な相場になる可能性があります。22年産は十分な生産量が見込まれていることから、状況を見極める必要があります。

## インペリアル灌漑当局の取水制限について

米国西海岸の深刻な干ばつが継続する中、輸出向け牧草の主要産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、灌漑当局より22年に利用可能な水の供給を管理するため、飲料水、農業、工業、商業用水の各利用者に水資源を公平に配分する公平分配計画が6月20日に発表されています。この影響で7月1日から12月31日まで産地の各生産者は灌漑用水の使用量が制限されることとなります。

例年であれば、生産者は料金を払えば制限なく灌漑用水を使用できましたが、今後、7月以降の取水制限が設定されたことで、牧草より換金性に優れる野菜の生産が優先される可能性があります。この影響でアルファルファ、スーダングラス、クレイングラスといった牧草の生産量減少及び、限られた水利用のなか生産を最大限にするため、より単収増加を目指し、通常よりも刈取りを遅らせることによる品質低下を招く可能性があります。

## スーダングラス

カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、6月上旬より収穫が本格化しています。産地灌漑局から発表された、6月13日付時点の作付面積は46,011エーカー（前年同期39,909エーカー）と、前年同期比115%となっていますが、インペリアル灌漑局による取水制限の施策により、冬野菜の栽培に備え、水の使用を抑える必要があるため、1番刈の収穫を終えたスーダングラスの圃場の中には2番刈の栽培を行わず、野菜への収穫準備を進める動きも見られています。

産地相場については、肥料価格や人件費、燃料費等の生産コストの上昇及び、22年産の生産量減少を危惧した輸出業者により旺盛な買付が行なわれており、他草種同様に大幅に上昇しています。





22年産スーダングラス（6月中旬撮影）

### クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）

主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは2番刈の収穫が終了しています。肥料代や燃料代をはじめとする生産コストが上昇していることに加え、アルファルファ相場が高騰していることから、安価なタンパク源の代替としてカリフォルニア州を中心とする米国の酪農家からのクレイングラスの引き合いが増えており、産地相場は上昇を続けています。

この内需向けの需要拡大は品質面でも影響が出ており、これまで生産された22年産は例年に比べて茎質の固い品質が多い印象です。背景には、過去、輸出向けに適さない茎質の固いクレイングラスが内需向けに販売されていましたが、内需向けの需要が強い現状、現地の生産者としては茎の固い品質でも通常価格で販売できるため、より多くの収量を目指し、通常よりも圃場への水入れ回数を多くする生産者が増加しました。クレイングラスは今後も生産が続くため、品質面でも注視が必要です。



22年産クレイングラス（6月中旬撮影）

## バミューダ

主産地であるカリフォルニア州インペリアルバレーでは2番刈の収穫作業を終えています。産地では米国内の馬糧向けの引き合いが強く、昨年比で産地相場は大きな上昇を続けています。輸出業者はバミューダの種子の収穫が終わり、バミューダハイの収穫が本格化する8月頃には相場が落ち着くことを期待しています。

## ストロー類（フェスキュー・ライグラス）

主産地であるオレゴン州ウィラメットバレーでは、4月から5月にかけて適度に降雨があったため生育状況は良好です。ペレニアル種のライグラスストローは7月中旬から収穫が開始される見込みです。

## カナダ産チモシー

主産地であるアルバータ州南部レスブリッジ地区と中部クレモナ地区では、旱魃が懸念されていましたが、6月にまとまった降雨があったため、状況は改善傾向にあります。これまで冷涼な気温が続いたことから、例年より7日から10日程度生育は遅れており、レスブリッジ地区では7月上旬から、クレモナ地区では7月下旬から順次1番刈の収穫が開始されます。

産地相場は昨年来旱魃が続いていたことから、カナダ国内の酪農家及び肥育農家における粗飼料の在庫率が低く、収穫と同時に旺盛な取引がされることが予想されていますが、6月の降雨が自給飼料の生産量増加を促し、チモシーに対する引き合いが緩和されることが望まれています。

## 豪州産オーツハイ

ウクライナ情勢の影響から小麦の価格が大きく高騰し、豪州産小麦が記録的な高値を推移しています。小麦はオーツハイの競合作物となり、22年産は小麦の換金性が優れることが見込まれていることから、産地ではオーツハイでなく、小麦の作付けを選択する生産者が多く、全豪的にオーツハイの作付面積が減少しています。

22年産の作況については、6月に産地全域でまとまった降雨があり、土壌水分は回復しており、順調に生育が進んでいます。産地は現在、冬季に差し掛かっており、今冬は、全豪的に例年に比べ気温が高く、降雨量は西豪州で前年並み、南豪州、東豪州で例年より雨が多くなる予報で、今後も良好な生育が見込まれています。

以上